

■第3回北東北三県共同展

境界に生きた人々―遺物でたどる北東北のあゆみ―

会期 平成22年7月23日(金)～8月29日(日) 会場 いわて文化史展示室・特別展示室

北東北三県共同展は、青森・秋田・岩手の県立博物館が調査研究の成果や所蔵品を持ち寄り共同で開催する展覧会です。今回の北東北三県共同展では、北東北を古代国家を中心とした「中の文化」と北海道を中心とした「北の文化」の「境界」と位置づけ、古墳時代から中世の北東北の歴史と文化について、考古資料や仏像、絵巻など多彩な資料で紹介し

最北の前方後円墳



写真1 ニワトリ形埴輪 (奥州市角塚古墳) 奥州市教育委員会蔵

5世紀後半になると古墳文化の波は岩手県南部に及び、現在の奥州市に本州最北の前方後円墳、角塚古墳が造られました。角塚古墳の発掘調査では円筒埴輪や朝顔形埴輪、形象埴輪の破片が多数出土しました。

写真1の埴輪は、ほぼ完全な形で復元されたニワトリ形の埴輪です。

また、角塚古墳の北方2km、角塚古墳と同じ時代の集落跡(中半入遺跡)から、方形に区画された豪族居館跡が発見されました。この遺跡から出土した大阪産の須恵器や土師器なども展示します。

末期古墳の時代

7世紀後半になると、気候が温暖になったこともあり、北東北各地で急激に集落が増加します。それに伴い、北上川流域や馬淵川流域、三陸沿岸の各地で、



写真2 獅噛式三累環頭大刀柄頭 (八戸市丹後平古墳群) 八戸市博物館蔵

群集墳が造られます。古墳時代末期の墓であることから、末期古墳と呼ばれており、古墳の主体部(棺が納められた場所)からは、埋葬者が愛用した(蘇)手刀や玉類、馬具などが出土しています。

馬淵川下流の八戸市丹後平古墳群では85基の古墳が発見されています。写真2は、第15号墳出土の刀の柄頭です。C字環を3個つないだ三累環の中央両側に獣面を施した「獅噛式三累環頭大刀柄頭」です。三累環をもつ柄頭は国内唯一の例です。

この柄頭は6世紀後半、朝鮮半島で製作されたもので、7世紀末から8世紀初めの末期古墳や埋葬された人の系譜を考える上で興味深い資料です。

城柵の北進

9世紀の初め、胆沢城(奥州市)、志波城(盛岡市)、徳丹城(矢巾町)が相次いで設置されました。

秋田城(秋田市)は、最北の古代城柵とされ、天平5(733)年、庄内地方から出羽柵が移されたことに始まります。



写真3 人面墨書土器 (秋田市秋田城跡) 秋田市教育委員会蔵

秋田城は政治・軍事の拠点であるとともに、外交・交流拠点でもありました。創建当初は白壁・瓦葺きの壮麗な外観であり、渤海使がたびたび来航し、当初は外交機能を帯びていたとされています。

写真3は、秋田城郭外の祭祀遺構から出土した人の顔が描かれた土器です。土器の中に災いを封じ込めたのでしょうか。秋田城跡では、和同開珎銀銭、蝦夷の名を記す戸籍や、甲の部品の小札など多彩な出土品がみられます。

仏教の普及と新たな産業



写真4 瑞花双鸞八稜鏡 (岩手町どじの沢遺跡) 岩手町教育委員会蔵

9世紀頃から、北東北の各地に仏堂が造られ、仏教文化が浸透するようになります。写真4は、岩手町一方井のどじの沢遺跡から出土した八稜鏡です。

特別入館料 一般500(240)円 大学生240(120)円 小・中・高生100(50)円 ()内は20名以上の団体割引料金
 ※常設展示もご覧いただけます。



写真5 五所川原窯跡群出土の須恵器 五所川原市教育委員会蔵

写真5は、青森県五所川原窯跡群から出土した須恵器です。五所川原窯跡群は、9世紀末から10世紀後半の須恵器窯であり、製品は北東北各地に送られました。

安倍氏・清原氏の時代

10世紀後半から11世紀にかけて、奥六郡の安倍氏、山北三郡の清原氏など在地の有力な豪族層が台頭します。

写真6は、青森市の新田(1)遺跡から出土した檜扇です。東北新幹線新青



写真6 檜扇(青森市新田(1)遺跡) 青森市教育委員会蔵

森駅建設に伴う発掘調査で出土した木製品で、その他に木簡や形代、仏像の腕などがまとまって出土しました。11世紀前半、奥の大道の終着点とされる外ヶ浜付近の遺跡であり注目を集めています。

展示では「後三年合戦絵巻」(当館蔵)や横手市観音寺蔵の仏像、清原氏の柵跡のひとつ、横手市大鳥井山遺跡の出土品などを紹介します。

平泉文化の展開

12世紀、平泉を本拠地とした奥州藤原氏は、独自のルートで購入した中国産や東海産等の陶磁器を、北東北の各拠点に搬入しました。また、陶磁器を経筒として用いて、各地で経塚の造営も行いました。写真7は、盛岡市繫の一本松経塚から出土した灰釉壺です。愛知県の渥美大アラコ窯産の優品です。その他に、重要文化財に指定されることになった柳之御所遺跡出土品も展示します。



写真7 渥美産灰釉壺(盛岡市一本松経塚) 個人蔵

津軽安藤氏の活躍

鎌倉時代、津軽半島の十三湊を拠点とした安藤氏は、蝦夷沙汰代官として日本海交易を行い、莫大な富を築きます。南北朝期には若狭国の羽賀寺の再建を引き受けるなど、幕府・朝廷から信頼を得て、「日之本将軍」と呼ばれました。

安藤氏は、15世紀半ば、南部氏との抗争に敗れて十三湊を去ることになりますが、戦国期に安藤愛季・実季父子が出て、近世大名秋田氏の基をつくりました。

写真8は、秋田家伝来の一ノ谷兜です。十三湊遺跡や、青森県から秋田県沿岸部の城館跡の調査成果、現存する秋田家資料から、安藤氏・秋田氏の歩みをたどることができます。



写真8 一ノ谷兜(秋田家資料) 秋田県立博物館蔵 秋田県指定有形文化財

(主任専門学芸調査員 鎌田 勉)

- 関連講座 13:30～15:00 講堂 当日受付・聴講無料
 - ① 7月25日(日)「東北の雄 阿弭流為(アテルイ)とその周辺」講師:水野正好氏((財)大阪府文化財センター理事長)
 - ② 8月22日(日)「奥州合戦について」講師:関 幸彦氏(日本大学教授)
- 展示解説会 各回14:30～15:30 当日受付・要特別入館料
 - ① 8月1日(日) ② 8月15日(日)
- 考古学セミナー
 - ① 講演会 8月8日(日) 13:30～15:00 講堂 当日受付・聴講無料
「北東北初期武家時代の覇者たち」講師:新野直吉氏(秋田大学名誉教授)
 - ② 現地見学会 8月21日(土) 8:30～17:30 要事前申込み 参加費未定
「前九年合戦・後三年合戦の舞台を歩く」～金ヶ崎町鳥海柵跡、横手市大鳥井山遺跡他～